

答え合わせ・解説

問1	答え 1 法隆寺	聖徳太子が建立したと伝えられる法隆寺は、1993年に「法隆寺地域の仏教建造物」として、日本で初めてユネスコの世界文化遺産に登録されました。その西院伽藍は、7世紀後半から8世紀初めにかけて再建されたものと考えられていますが、世界で最も古い木造建築として非常に高い歴史的価値を持っています。
問2	答え 1 朝鮮半島の南西部に位置し、日本と親交のあった百済が滅ぼされたため、日本は復興を助けるために軍を出したが白村江で敗れた。	当時の朝鮮半島では、唐と結んだ新羅が勢力を伸ばしており、660年に南西部の百済を滅ぼしました。日本は百済の復興を支援するために戦いましたが、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、朝鮮半島からの撤退を余儀なくされました。この国際的な危機感から、日本では天智天皇を中心に中央集権的な国家づくりが加速しました。
問3	答え 1 法隆寺	奈良県斑鳩町にある法隆寺は、7世紀初めの飛鳥文化を象徴する寺院です。東大寺や唐招提寺は奈良時代の天平文化を代表する建築であり、平等院鳳凰堂は平安時代の国風文化を代表するものです。法隆寺の西院伽藍は、世界で最も古い木造の建物として国際的にも高い価値が認められています。
問4	答え 1 聖徳太子によって建立され、当時の大陸の影響を強く受けた飛鳥文化の特色を今に伝えている。	法隆寺は推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）ゆかりの寺院であり、飛鳥時代の仏教文化（飛鳥文化）を象徴する存在です。飛鳥文化は、中国の南北朝時代の文化や、朝鮮半島の百済、高句麗からの渡来人の技術が融合した日本初の本格的な仏教文化であり、法隆寺の建築様式にはその影響が色濃く残っています。
問5	答え 1 大宝律令の制定によって律令国家の仕組みが整えられた時期の都であり、本格的な官僚機構を備えていた。	藤原京の時代は、まさに「律令国家」の完成期にあたります。701年に大宝律令が制定され、天皇を中心とした中央集権的な統治制度が確立されました。藤原京はそのような複雑な行政組織を収容するために、日本で初めて本格的な条坊制（碁盤の目状の区画）を採用した都として建設されました。他の選択肢は、平城京（聖武天皇）、飛鳥時代の防衛、または平安京の記述であり、時代背景が異なります。
問6	答え 1 「天皇」という称号や「日本」という国号の使用を本格化させ、八色の姓を定めて貴族を序列化した	天武天皇は壬申の乱という国内最大級の内乱を勝ち抜いたことで、極めて強い権力を手にしました。これを利用して、それまで有力豪族の連合体であった政治体制を、天皇を頂点とする秩序へと作り替えようとした。具体的には、「八色の姓（やくさのかばね）」を制定して豪族たちを天皇に仕える官僚として序列化したほか、国家としてのアイデンティティを確立するために「日本」という国号や「天皇」の称号を用い始めたと考えられています。
問7	答え 1 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定するなど、中央集権的な国家体制の確立を目指していました。遣隋使の派遣は、隋の高度な統治システムや仏教文化を直接吸収し、日本の政治改革に活かすことが大きな目的でした。また、中国の皇帝に対して対等な立場での外交を試みたことも特徴の一つです。
問8	答え 1 唐と新羅の連合軍に敗れたため、日本は唐・新羅による侵攻を恐れ、九州の大宰府北方に水城や山城を築いて防備を固めた。	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた日本は、大陸からの報復や侵攻を強く警戒するようになりました。そのため、対外防衛の拠点である大宰府（福岡県）を守るために水城（堤防状の防衛施設）や大野城などの山城を築き、さらに西日本の各地に「防人（さきもり）」を配置して国防を強化しました。この危機感は、日本が中央集権的な国家体制を急ぐ要因の一つとなりました。